

K O G E I 2022



東京藝術大学 美術学部 工芸科 2022年度 学科案内

TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS
DEPARTMENT OF CRAFTS

TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS DEPARTMENT OF CRAFTS 2022
COVER : 時田 早苗 / 修了制作「賀上洋作品」
TITLE: 桃花鳥 SIZE: H225×W168×D45cm



上野校地
取手校地
〒110-8714
〒302-0001

東京都台東区上野公園12-8
茨城県取手市小文間5000

東京藝術大学ウェブサイト www.geidai.ac.jp
工芸科ウェブサイト www.kogeい.geidai.ac.jp
お問合せ先: 050-5525-2075(東京藝術大学学生課入学試験係)

科長挨拶

この地で育まれてきた素材の扱いやそれを用いて制作するための技術が、作品制作という行為でアーカイブされている東京藝術大学の工芸科。彫金、鍛金、鋳金、漆芸、陶芸、染織という分野で専門性の高い教育を上野の地で続けてきました。この環境には確かな歴史が息づいていて、私たちはそこで制作研究を続けています。1991年には茨城県取手市に取手校地が開設され、陶芸の登窯、木工芸、ガラス造形が稼働しています。世界的に日本の工芸が注目される中、本年度より素材造形(木材・ガラス)分野を新たに設けることになりました。

コロナパンデミックの中、工芸作品の持つ力、手で物を作ることの喜び、人々との繋がりや共感できることなど、工芸を考えることは、私たちの生き方に直結する意味で今日の問題として立ち上がっています。東京藝術大学工芸科では、伝統自体を問い合わせ、現代に即した作品制作を通して、継承していくことと革新することの意味を問い合わせています。

世界に開かれている東京藝術大学工芸科で、未だ気付いていない自身の可能性を発見し、豊かな才能を開花して世界に羽ばたいてもらいたいと思っています。

東京藝術大学美術学部工芸科 科長 三上 亮



入試について

◇ 問題文は本学ウェブサイト 入試情報<<http://admissions.geidai.ac.jp>>からご覧頂けます。

工芸科学部入学試験は、第1次試験の鉛筆写生、第2次試験の平面表現、立体表現、大学入学共通テスト、出身校の調査書から総合的に考查し判定します。

受験科目だけのエキスパートになるのではなく、様々な場面において力を発揮する柔軟な学生を求めていきます。

鉛筆写生

写生は、あらゆる意味で創作活動を支える造形の源になるため、工芸科では高い水準のデッサン力を有した人材を求めていきます。受験科目の一つとして捉えてしまう人も少なくありませんが、観察から得られた発見や感覚は、素材を扱って作品制作をする工芸科にとって大切なことと考えます。

平面表現

描写力や構成力をつけることが基礎となり、同時に色彩感覚が高まることで工芸独自の質の高い作品を制作することが可能になります。対象を観察し構成することは、工芸科の制作に必要な豊かなイメージや感性を養うことにも繋がります。

立体表現

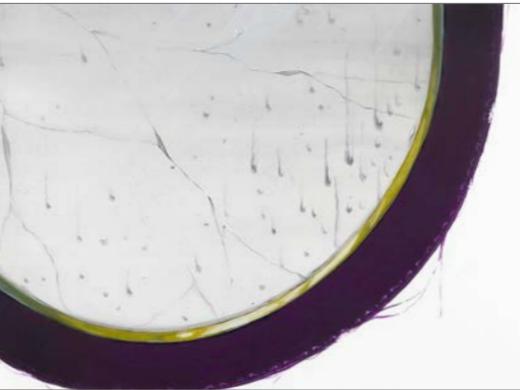
モチーフの的確な観察による立体感の把握、質感の表現、空間を意識した量感の構成などは、立体造形における基本です。さらにイメージや発想の独自性などを含めて、工芸科の専門分野の様々な素材に対応できる柔軟な能力が必要となります。

2022年度
合格者作品

〔鉛筆写生〕



〔平面表現〕



〔立体表現〕



工芸科の学内行事

本学では、研究の一環として古美術研究旅行をはじめ、様々な行事やイベントを行います。学生主体で一つのイベントを成し遂げる事や、国際的な視野を広げる経験は、通常の授業とは異なる貴重な機会となります。

*コロナ禍で例年と方法を変更しての開催や中止となる行事もあります。

古美術研究旅行

学部3年生の4月に2週間、奈良と京都の神社仏閣を見学します。状況に応じてオンライン授業と関東での見学・研究を行う場合もあります。



国際交流 (変更)

海外よりキュレーターや美術大学教員などを招聘し、国際的な視野を広げ、世界に通用するアーティストを目指した講演会を行います。2020年度からはオンラインでの授業をとり入れています。



新入生歓迎会 (変更)

工芸科に入学して最初のイベントです。コロナ禍でも繋がりを大切にするため、オンラインにて新入生の紹介や分野の紹介を行っています。



藝祭 (神輿・法被中止)

学部1年生は各科グループになって神輿と法被を作製し、上野公園でパフォーマンスをします。コロナ禍では、オンラインで展示やイベントを行うバーチャル藝祭が開催されました。



研究旅行 (中止)

各研究室で企画する旅行です。学部1年生は親睦を深めるため、分野はそれぞれの研究分野への理解を深められるような訪問先を選び、制作に生かします。



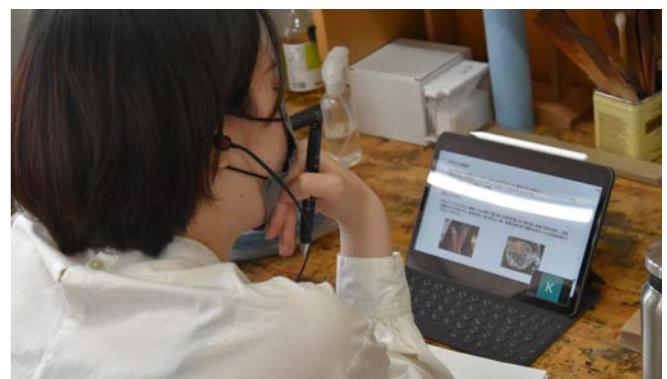
卒業・修了作品展

学生制作活動の集大成となる、学部・大学院の研究成果展です。「東京都美術館」「東京藝術大学大学美術館」などの会場で作品の展示発表を行います。コロナ禍ではハーフチャル展覧会も開催しました。



コロナ禍の授業風景

2020年度からは、継続した教育の機会を確保するため、オンラインと対面の両方で授業を行っています。対面では距離をとりつつ、オンラインを取り入れるなど理解しやすいように工夫をこらして授業を行っています。



専門分野紹介

彫金

たがね 鑿を操り生み出される繊細な世界

彫金は、主に金鎚と鎬(たがね)を使用して、金属を彫る、立体的に打ち出す、他の金属をはめ込み象嵌(ぞうがん)をするなど、様々な加工技術を基礎として学びます。金属の切削性や可塑性を生かし、金属同士をつなぎ合わせて器やオブジェ、ジュエリーなどの作品が制作されています。また本学の取手校地には金工工房表面処理室があり、七宝焼きについてもカリキュラムを設けて学んでいます。素材には銅・真鍮(黄銅)・錫・鉄・ステンレス・アルミニウム・チタニウムや金・銀・プラチナなどの貴金属、伝統的な日本の合金である赤銅・四分一などがあります。カリキュラムの進行とともに技術や素材の体験を重ねて、感性や表現力を高め、学生それぞれの研究テーマによって制作研究が進められます。たえず生活空間全体を意識し、現状における表現方法の在り方を探求して新しい個性を築き、世界に向けて発信しています。



透かし彫りの技法によるコンテンポラリージュエリーの仕上げをしています。



紡いた銅線に釉薬を焼き付け立体作品を制作しています。

鍛金

金鎚を用いて多彩な造形を作り出す

鍛金は、銅などの様々な金属の板を金鎚で叩き立体へ加工する“絞り”と、鉄の棒材などをバーナーや炉で赤くなるまで熱し叩いて加工する“鍛造”的2つの伝統技法を軸としています。カリキュラムは、基本手絞り実習(回転体)・1枚変形絞り(動物制作)・鍛造実習・接合実習(木目金制作、ロウ付け等)があります。これらの基礎技法に加え現代的な機械加工・各種接合技術なども実習を通して学ぶことで、金属造形の基礎知識と総合的な表現力を養い、より幅広い創作力の向上と多岐にわたる作品制作を目指しています。卒業後は、現代美術家・伝統工芸作家として独立し活動している者や、専門知識を活かしデザイナー(建築・内装・広告・プロダクトなど)・教育者・研究者などの職に就く者など、様々な方面で活躍しています。



鉄は赤いうちに叩くことで容易に変形します。



一枚の銅板を、様々な金槌と当金を用いることで造形します。

卒業後の進路

金沢美術工芸大学 / 准教授・金工作家

2011年修了 水代 達史



幼い頃から物を作ることが好きで、その単純で一途な思いから工芸の道へと進路を決めました。第一歩として芸大受験へと舵を切ったわけですが、道のりは険しく不合格という挫折を幾度と繰り返し、ようやく入学を許されました。予てから金属に憧れていたこともあり、金工の一つである彫金を専攻し、専門的に数多くの事を学びました。先生や先輩、同級生などたくさんの人との出会いに助けられ、知識や技術だけでなく、ものを創ることの本質や表現する事について考え、実践する貴重な時間を作ることができました。大学はこれから社会に出ていく上での通過点に過ぎませんが、私自身が教育現場に身を置き、制作を通じて表現し続けて来られたのは、大学生活での積み重ねが核となって存在しているからだと思っています。

卒業後の進路

(株)電通 / アートディレクター

2015年修了 瀧澤 章太郎



私はアートディレクターとして、デザイン/プランディング/空間デザイン/アートの設計などを行なっています。現在はJAXAさんと一緒にロケットのプランディングをしていたりとかも。学生時代ですが実は「鍛金」はそんなにやっていません。ものづくりの仕組みやモノがどう作られるかの工程を理解できたことが今の仕事に生かされています。ただ、鍛金は社会に出てから見ると凄く面白い分野だと思います。簡単に身につかない技術を習得することは世界のアーティストと戦う上で非常に有効的な武器になります。芸大では入学した時から1人の大人として扱われる所以で思考する力も身に付きます。社会で生きていくにはとても大事な力です。1人前のアーティストおよび社会人となったみなさんと一緒にお仕事できることを願っております。

鋳金

金属を瞬間に自分のカタチに！

鋳金は、粘土や石膏、蠍などで作成した原形を型取って、型(鋳型)に熔けた金属を流し込んで鋳物を作り、それを様々な方法で仕上げ、作品を完成させます。固い金属を思い通りの形に成形する事ができ、創造的でとても魅力的な技法です。また、指輪などのジュエリー、茶の湯釜や鉄瓶などの器物、大仏やモニュメントなどの野外彫刻、自動車のエンジンのような工業製品など、技術の使用は多岐にわたっています。本校は、日本古来より受け継がれている伝統技法を始め、最新の技法まで多種の鋳造技法を学ぶ事が出来る世界にもあまり類を見ない工房設備を擁しています。授業では素材・技法・造形への理解と洞察を深め、創作技術と感性を磨く事で、総合的な高い創造力を身につけて行きます。卒業生は、造形作家、デザイナー、教育者として、また、修士、博士課程への進学や海外留学などを通して、その力を発揮しています。



1100°C以上で溶解した銅合金を鋳型に流し込みます。

鋳物の仕上げとその着色過程を経て、金属ならではの特色ある表情が現れます。

卒業後の進路

コの字カフェ・製作所 / カフェ経営

2017年修了 天野 亜美



私は、横浜市で小さなカフェをオープンし、試行錯誤しながら日々営業しています。カフェ経営に興味を持ったのは大学時代にしていたアルバイトがきっかけでした。お客様がどういう反応をしてくれるのか。想像しながら作ったものが、実際に喜んでもらえたことが新鮮でやりがいを感じ、自分のお店を持ちたいと思うようになりました。多くの人に美術をもっと身边に感じてほしいという思いから、私の作品のコンセプトは「見るだけでなく、作品に関わることで初めて完成する」ことでした。そういう遊び心を生かしてお店作りに励んでいます。また、カフェの横には工房も併設しており、鋳造を始めとしたものづくりができるようになっています。子供でも楽しめるワークショップを通じて、自分の好きなものづくりに触れてもらえたたらと活動をしております。

漆芸

伝統に育まれた自由な立体造形

漆芸はウルシの木から採取した樹液を用いた芸術です。その歴史は古く、縄文時代から漆は塗料や接着剤の用途で使用され、アジア独自の素材表現として広く知られています。東京藝術大学の漆芸教育は基本的な塗りの工程(下地、研ぎ、塗り、磨き)から素地制作(乾漆、木胎)、装飾技法(蒔絵、螺鈿、平文、卵殻、沈金、変わり塗りなど)まで一貫した授業を行っています。また漆に関する外部専門家による集中講義、歴史研究、漆芸ギャラリーでの企画展示、国際交流などを行い、幅広い視野を持った学生を育成するとともに、学生の自主性と社会への発信力を培っていきます。自己の世界観を探求し、多様な漆芸表現を創作研究することで豊かな感性を養い、社会で活躍できる人材を育てます。卒業後は大学院へ進学し、研究をさらに深める学生も多く、そこから作家・教育者・研究者・デザイナーなどとして国内外で活躍しています。



伝統的な装飾技法である蒔絵をはじめ、様々な技法を基礎から学びます。



最終的な研ぎ作業。完成まであと少し。

卒業後の進路

(株)山謙木工所 / 蒔絵師

2016年卒業 山本 由麻



在学時より福井県鯖江市・越前漆器のまち河和田で産地の工芸の魅力に触れ、卒業と同時に移住しました。産地の漆器製造は全てが分業制。その中で「蒔絵」を専門に一職人として漆器製造に携わっています。越前漆器では旅館業・飲食業の器に関わることが多く、お食事を華やかに演出できるような器づくりの一端を担える職人になれるよう日々絵を描き続けています。また結婚を機に和包丁の柄製造専門の木工所「(株)山謙木工所」に入社。漆×越前打刃物の新しい姿を提案しています。会社併設のギャラリー「柄と繪 etoe」にて包丁と柄の漆加工オーダー製作・販売、工芸体験も行っています。柄と繪では多くの人に漆・打刃物をはじめ、工芸を知って楽しんでいただけるような場づくりを目指しています。

陶芸

培ってきた伝統と現代の陶芸の可能性

陶芸は、伝統技法を基本にした学びから、工芸的感性や用の美を踏まえた制作、そして素材研究から生まれる造形性を重視した教育へと学年の進行と共に発展的に行っています。学生自身の柔軟な発想力を生かしながら実技の積み重ねによって、創造性に溢れ広い視野を持った、第一線で活躍できる人材の育成を目指しています。技術面では、轆轤成形、窯窓実習、登り窯をはじめ多様な窯の焼成実習、釉薬の調合、デザイン性を主とした石膏鋳成型など、多岐にわたる陶芸の基礎的な技法を広く学ぶことができます。独自の発展を遂げた日本の陶芸は、世界からますます注目されており、その伝統を礎として海外との交流にも力を注いでいます。



大壺大会。制限時間を設け、学生全員で壺の轆轤挽きを競い合っています。



薪を燃料とする登窯による焼成。

卒業後の進路

陶芸作家・陶芸教室祖師谷陶房 / 講師

2018年修了 森 悠紀子



陶芸作家の仕事を意識した最初のきっかけは、在学中に兄の結婚式の引き出物として器を制作したことでした。自分の手から生み出された作品が、多くの人の生活に溶け込んでいくのを実感し、暮らしに寄り添う工芸としての魅力を再認識しました。

卒業後は、陶芸教室で講師をしながら、作家活動を続けています。陶芸教室はものづくりの場ですが、仕事はサービス業でもあり、指導を通して様々なバックグラウンドを持った方と接する職場です。作品づくり自体は一人でもできますが、素材や技法、制作に対する姿勢など、一人では気づくことのできないこともあります。人と関わり話を聞き、自分の言葉で話すことは、手を動かして作品をつくることと同じくらい、自分の制作において不可欠な要素だと感じています。

染織

新しい感性が、今を染める、今を織る

染織は、伝統と現代の融合・発展を教育理念に、工芸においてアートとデザインの双方を兼ね備えた人材育成を行っています。カリキュラムの特色は、染と織の多様な技法をバランス良く編成し、基礎と専門の段階的教育によって技術・表現と知識・理論の専門能力を身につけることができます。各自の個性を生かしながら、染織表現における多角的視野と多様性を学び、将来の方向性を見出します。

社会で幅広く貢献できるようプレゼン能力を身につけ、次世代の染織作家や教育者、テキスタイル・ファッショント・空間演出などのデザイナー、起業家として独自のブランド展開をしていく人材と、グローバル化に対応できる人材を輩出します。



襦袢や蟻で防染し、刷毛で一色ずつ模様を染め出していく、日本伝統の染色技法や量産が可能なシルクスクリーンを学び、現代の表現を探求します。



糸を染め、紡ぎ、様々な繊維素材に触れ、独自の表現で織り進めます。織技法では、特有のテクスチャーを生かした多彩な造形表現が可能です。

卒業後の進路

マナトレーディング株式会社 / マーケティング部開発チーム

2020年修了 木下 はるか



作品画像:2020年卒業修了制作より

染織研究室を修了後、テキスタイルデザイナーとして、インテリアファブリックの会社に就職しました。現在は、カーテン・壁紙・ラグなどの企画開発やデザイン制作に携わっています。学生時代は、シルクスクリーン技法でしかできない自己表現を追求し、作品制作に取り組んできました。版という制約があるからこそ表現できる魅力的なリピート柄や、染料でしか表現できない奥深い色合いは、絵画とは違う染織ならではの面白さです。

会社での企画開発では、クリエイントの要望をデザインに落とし込んだり、他者の視点で物事を考えてカタチにしたりと、作品制作とは違った難しさがあります。

しかし、予算や納期、製造技術などの制約の中でベストをつくし、カタチにするという点では、私が学生時代に取り組んできたものづくりの延長線上であると感じています。

素材造形（木材・ガラス）

素材造形分野では、選択した木材またはガラスを主に扱いそれぞれの造形・技法について、演習を通して学びます。木材の演習では、木工に必要な道具の仕立てから、各種基礎技法の演習、総合技法としての家具制作や木材造形を学びます。ガラスの演習では、ホットワーク、キルンワーク、コールドワークなどガラス造形に必要な技法を学びます。取手校地にある様々な工房を利用しながら、素材を通して思考する造形を目指し、卒業・修了制作では自立した研究制作ができる人材育成をします。

木材 研ぎあげた刃物で多様な造形を組み上げる

木工は世界の歴史の中で多様な姿と役割を担ってきました。建造物や家具、道具、室内装飾などがあります。その中で日本の木工に注目すると、その造形の考え方や技法、並びに使用する道具の発展に独自性と洗練が見て取れます。本校の木工のカリキュラムでは、木を組む事を中心に据えながら様々な造形と技法を学び、それらを成立させる背景について学びます。卒業修了後の進路は木工に従事する者、美術家、起業する者、企業のデザインや企画部門への就職、教育者や研究者など様々な方面で活動しています。



箱の角をつなぐ継手を作る様子。

卒業後の進路

木の工房「iwakagu」 / 家具職人 2007年修了 岩崎 翔

学部ではデザインを学んでいたため、手加工の技術や木工に関する知識もほとんどない状態で入学しました。2年間を通して「将来は家具を作れるように」と目標をもち、木工芸に関する知識はもちろん、自分の制作する時間と場所を与えてもらい、納得のいくまで制作に励むことができました。卒業後は出身地の静岡市に戻り、家具工房を構え、現在では会社として経営し13年。オーダー家具の設計制作、設計士から依頼を受けて作る什器類、オリジナルの木製小物と多岐にわたる制作をしています。静岡は家具産地として栄えた街で、分業の仕組みが多く残り、様々な技術の職人たちと日々関わります。静岡が持つものづくりの技術を、世の中に発信し伝えていくこともまた、今後の木工職人としての役割の一つと考えています。



ガラス 変幻自在なガラスの可能性を追求する

ガラス造形技法を大きく分けると「吹きガラスを代表とするホットワーク」「電気炉を使って制作するキルンワーク」「切り子などガラスを加工するコールドワーク」があり、これら全ての技法を学ぶことができます。教員と頻繁に行うチュートリアルや、国内外の作家を招き、実践的で幅広い視野を持った授業を行うことで、造形力だけでは無く「考える力」「表現する力」を持った、総合力の高い作家の養成を目指しています。卒業後は、個人工房やブランドを立ち上げて、作家活動をする他にガラスマーカーや工房、教育機関に就職をしています。



卒業後の進路

ガラス工芸家

2011年博士課程修了 藤田 紗代

私はガラスで立体作品を作り、作品の展示や販売をしています。卒業後は、環境作りから始めました。私は窯でガラスをとかします。窯は電気制御ですが、震災の経験から「非常時にすぐ対応できるよう、電源が入っている間は窯の側にいる」と決意しました。窯焚きは数日かかるので、1Kの部屋を借り、同じ空間で制作と生活ができるようになりました。その部屋で過ごすうち、制作の合間にジャム作りをするなど、新たな楽しみも増えていました。今は1階が工房、2階が住居の家に移り、パンやお菓子も焼きながら、日々自分の手で作る楽しさを満喫しています。藝大での様々な出会いと学びが、私の今の心地良い暮らしに繋がっているのだと思います。



進路について

工芸科の学生は学部卒業後、それぞれの夢に向かって羽ばたきます。

大学院へ進学し制作や研究を続ける、企業や教育機関・工房などに勤める、自身のブランドを立ち上げて独立するなど、その進路は様々です。

勿論作家活動を続け、ギャラリーやアートフェアなどで作品を発表し、コンペティションで受賞する卒業生を始め、卒業生は、学生生活の中で学んだ知識や経験を基に、デザイナーや制作者など、それぞれの分野でその能力を発揮しています。

主な就職先一覧

製造・ブランド	販売	教育機関	【専門学校等】
株式会社平林七宝 株式会社プラスラフ 株式会社BRUNCH 株式会社ベリテ 本田技研工業株式会社 株式会社本保 株式会社マーブルッシュ 株式会社マイティデザインワークス 株式会社まんだらけ マルミツ陶器合資会社 株式会社SGC 株式会社STファクトリー 株式会社エフ・ディ・シィ・プロダクツ 株式会社エボック社 MHソリューションズ株式会社 株式会社大倉陶園 沖縄県読谷山焼北窯 小津産業株式会社 カガミクリスタル株式会社 株式会社柏圭 株式会社カッシーナ・イクスシー 株式会社カブモ 株式会社川島織物セルコン 株式会社くるり 株式会社ケイ・ウノ 小泉ライフルテックス株式会社 コクヨ株式会社 小松精練株式会社 株式会社coly 株式会社サザビーリング 株式会社サンゲツ 株式会社ザ・カンパニー シチズン宝飾株式会社 株式会社シャルマン 株式会社鈴峯 株式会社スタージュエリー 株式会社スペース スリーエム ジャパン株式会社 セーレン株式会社 有限会社清课堂 株式会社SOU・SOU 有限会社ソラ 高橋理子株式会社 鍛造指輪株式会社 株式会社チャコット 株式会社土屋麗製造所 株式会社ディーエイチシー 株式会社ディー・エヌ・エー 株式会社天童木工 東洋佐々木ガラス株式会社 西川株式会社 日産自動車株式会社 ニッポンシリップ株式会社 日本アニメーション株式会社 株式会社俄 任天堂株式会社 NORITAKA TATEHANA 株式会社箔一 株式会社バルコス	株式会社ポリフォニー・デジタル 株式会社マイナビ 株式会社MaGO EXPERIENCE 株式会社モルフォ ギャラリーきくら主幹 株式会社九つ井 株式会社そごう・西武 株式会社高島屋 株式会社中南海トレーディングコーポレーション 株式会社東急ハンズ 株式会社バニーズジャパン ブリモ・ジャパン株式会社 株式会社ベルニナジャパン 株式会社モード・エ・ジャコモ 株式会社ユナイテッドアローズ	茨城県立取手松陽高等学校 宇都宮文星女子高等学校 香川県公立高等学校 学校法人跡見学園 学校法人麻布学園 学校法人鎌形学園東京学館船橋高等学校 学校法人玉川学園 吉祥女子中学高等学校 慶應義塾中等部 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部 埼玉県立進修館高等学校 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学校 社会福祉法人葛飾学園 昭和第一学園高等学校 女子美術大学付属高等学校・中学校 聖光学院中学高等学校 千葉県立泉高等学校 千葉県立流山中央高等学校 千葉県立幕張総合高等学校 千葉県立八千代東高等学校 東京学館船橋高等学校 東京都立有徳高等学校 東京都立工芸高等学校 成田高等学校 日々輝学園高等学校 明星学園中学校	会津大学短期大学部 青山学院大学 秋田公立美術大学 宇都宮大学 桜美林大学 沖縄県立芸術大学 金沢美術工芸大学 九州産業大学 京都精華大学 神戸芸術工科大学 静岡文化芸術大学 四川美術学院(中国) 女子美術大学 杉野服飾大学 多摩美術大学 筑波大学 大邱대학교(韓国) 東京家政大学 東京藝術大学 東京工科大学 東京造形大学 東京大学 東北芸術工科大学 東北工業大学 東北生活文化大学 富山大学 長岡造形大学 広島市立大学 文化学園大学 文星芸術大学 北京市立大学(中国) 武蔵野美術大学 横浜美術大学 【高等学校・中学校・小学校】 青山学院横浜英和中学高等学校 茨城県公立高等学校
企画・デザイン・印刷	教育機関	【専門学校等】	その他
株式会社アートナウ 株式会社アケア 永大産業株式会社 株式会社HDR 株式会社岡村製作所 株式会社オズ 株式会社オリエンタルランド 株式会社クリーチャーズ 株式会社グレープストーン コナミホールディングス株式会社 株式会社コンシェルト 株式会社サイバーエージェント STUDIO NIJI 株式会社セントラルプロフィックス 合同会社DMM GAMES 株式会社大日本印刷 デザインフェスタ有限会社 株式会社デサン 株式会社テレビ朝日クリエイト 株式会社電通 凸版印刷株式会社 株式会社ドラフト 日本ブレイド株式会社 株式会社バルス 株式会社Plan・Do・See 株式会社ベネッセコーポレーション	【大学】 会津大学短期大学部 青山学院大学 秋田公立美術大学 宇都宮大学 桜美林大学 沖縄県立芸術大学 金沢美術工芸大学 九州産業大学 京都精華大学 神戸芸術工科大学 静岡文化芸術大学 四川美術学院(中国) 女子美術大学 杉野服飾大学 多摩美術大学 筑波大学 大邱대학교(韓国) 東京家政大学 東京藝術大学 東京工科大学 東京造形大学 東京大学 東北芸術工科大学 東北工業大学 東北生活文化大学 富山大学 長岡造形大学 広島市立大学 文化学園大学 文星芸術大学 北京市立大学(中国) 武蔵野美術大学 横浜美術大学 【高等学校・中学校・小学校】 青山学院横浜英和中学高等学校 茨城県公立高等学校	会津漆器技術後継者訓練校 青森県産業技術センター弘前地域研究所 石川県立輪島漆芸技術研修所 沖縄県工芸技術支援センター 御茶ノ水美術学院 香川県漆芸研究所 柏美術学院 学校法人文化学園 学校法人水野学園 金沢卯辰山工芸工房 富山市立富山ガラス造形研究所 武蔵野学芸専門学校 山梨県立宝石美術専門学校	伊勢神宮 市貝町役場 株式会社フォルトウーナ 株式会社メーカーズ 警視庁 社団法人日本クラフトデザイン協会 独立行政法人国立印刷局 独立行政法人造幣局 アトリエTOCOHA 新潟市役所企画政策課 八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 星野リゾート ユカイ工学株式会社

卒業・修了作品の紹介

学生生活の集大成

卒業・修了制作は、学生が作家、あるいは研究者として世界に踏み出す第一歩となります。工芸科での制作は、伝統の中で培われてきた技法を学び、知識を得て、さらに自己鍛錬し、素材の特性を見据えつつ、技術の習得を目指します。学生は大学で様々な経験を積み、技術の習得はもとより、新たな素材との出会いや創作活動の中で独自の表現を追求します。情熱と探究心を持ち、挑戦を続けた卒業・修了作品は、自己の創作活動の大きな区切りとなるだけでなく、工芸の世界に新しい可能性を提示し続けています。

彫
金 | 【修了作品】李 真理
Intimate Organs
透かし彫り・けがき・金鉄／銀・金・プラチナ・ステンレスワイヤー
H2.5 × W5 × D9.5cm 他7点



漆
芸 | 【卒業作品】鈴木 阿弥
skin ship
乾漆・蒔絵・螺鈿・卵殻 / 漆・麻布・顔料・卵殻・貝・銀・木
H30 × W145 × D70cm



陶
芸 | 【修了作品】仲鉢 聖波
Famme fatale
轆轤成形・染付 / 磁土
H35 × W11.5 × D11.5cm



鍛
金 | 【卒業作品】佐々木 沙奈
対話の痕跡
溶接 / 鉄
H108 × W145.6 × D3cm



鍛
金 | 【修了作品】赤木 花
MIND SEA GLASS
石膏埋没铸造法 / 真鍮・青銅・硝子・木
サイズ可変



染
織 | 【修了作品】千田 華子
Refine Wool
ホームスパン・フェルトワーク・綴織 / ウール
H200 × W50 × D40cm



ガ
ラ
ス
造
形 | 【修了作品】萩原 瞳
16 : 23
キルンワーク / ガラス・写真・言葉
H57 × W65 × D65cm



研究室紹介

工芸科は彫金、鍛金、鋳金、漆芸、陶芸、染織の6分野に、2022年度学部カリキュラムより併設された素材造形(木材・ガラス)を加えた7分野14研究室を有しています。

大学院(修士・博士課程)においては、専門分野を主軸とした教員それぞれのテーマやキーワードを強みとする研究室に所属し、指導教員と学生が面談をして学生自身の研究テーマを確定します。各研究室の技術力・発想力・行動力などの特性を生かした指導のもと、各々に必要な専門分野の研究を深めていきます。学部で得た技術・知識をさらに推し進めた専門性に特化する研究が可能であるとともに、世界各地にある国際連携校を含めた国際交流を積極的に行う研究室、社会連携や国内外のプロジェクトに参加する研究室など、国内外へ広く発信を行いつつ、学生の視野を広げる取り組みも行っています。

独創性・独自性を持ち合わせた教員による専門性のある研究室と多様な専門分野の設備を有している本学ならではの研究や経験を積むことのできる環境が整っています。



教授
前田 宏智

MAEDA Hirotomi

専門分野：彫金
テーマ：素材と手法の展開
キーワード：金属素材の面白さ
行為と表現



comment

金属は元来鉱物として存在し、様々な性質、個性をもっています。有史前から作り手は対話を繰り返し、魅力を引き出し、試行錯誤を重ねてモノを生み出していました。そのような観点から、彫金を中心とした様々な素材や技法、道具などをあらためて受け取り、現代に求められる表現のために作る力を広げたいと思います。

comment

金属に装飾を施す彫金という造形行為をもとに、素材や技術は元より、思考を軸とした表現や対象とする事柄の本質を考え、様々な要素が重なり合う複合的な視点や手法で、人から空間に至る様々な場面における造形やジュエリー表現の可能性を求める研究を行っています。



准教授
岩田 広己

IWATA Hiroki

専門分野：彫金
テーマ：複合装飾
ジュエリー
キーワード：純粹と応用
身体と造形
感覚と思考



教授
丸山 智巳
MARUYAMA Tomomi

専門分野：鍛金
テーマ：金属造形表現
キーワード：伝統技法と現代



comment

鍛金の伝統技法と現代の機器を用いて、より自由な造形表現の可能性を研究し、鍛金の要である道具造りから金工技法を学ぶことにより本質的な造形力を養う授業展開をしています。社会との連携においてもワークショップ等を介して金属造形の楽しさを提供しています。



准教授
志村 和彦
SHIMURA Kazuhiko

専門分野：鍛金
テーマ：金属造形表現
キーワード：鍛造表現



comment

素材の特性を理解しつつ表現していくことで気づく自己の世界観や、伝統技法を基盤として新たな表現の可能性を探ることが大事だと考えます。素材、技法、自己の世界観のそれぞれを対話させながら、主に鉄を素材として鍛造技法による作品を展開しながら、金属造形表現の可能性を追求しています。



教授
赤沼 潔
AKANUMA Kiyoshi

専門分野：鋳金
テーマ：鋳造プロジェクト
楽しいですよ！
キーワード：鋳金からの造形



comment

様々な素材で制作した原型を金属に置き換え仕上げる鋳造技法と日本有数の鋳造設備を駆使し、個人作品のみではなく、芸術祭や東京2020復興のモニュメントなどのプロジェクトに参加しています。教育と社会との繋がりという大学の強みを生かし、社会と連携し発信することを目指しています。



教授
谷岡 靖則
TANIOKA Yasunori

専門分野：鋳金
テーマ：消失原型による
細密鋳造表現
キーワード：細密表現
消失原型
ロストワックス鋳造



comment

ロストワックス鋳造法は紀元前から現代に至るまで使われている技法であり、世界各国どの地方でも実践されています。その技法は様々であり、鋳型にはその地方の特色も見られます。本研究室では美術鋳造の基本であるロストワックス鋳造法を多岐に亘る視点から紐解き、現代に於けるより細密な鋳造表現の可能性を探りながら新しい表現は何かを研究しています。



教授
小椋 範彦
OGURA Norihiko



専門分野: 漆芸
テーマ: 漆芸技法の応用
キーワード: 蒔絵
螺鈿
乾漆
伝統技法

comment

金属粉や貝を用いた伝統的な装飾技法(蒔絵や螺鈿)と造形表現(木胎・乾漆)に現代的な感覚を取り入れた漆芸技法の追求をしています。学生と共に漆芸技術のあるアジア圏を中心に交流を積極的に行い、研究成果を国際社会へ発信しています。



教授
三上 亮
MIKAMI Ryo



専門分野: 陶芸
テーマ: 焼成による素材変化
キーワード: 窯構造・窯窓
土
技術・技法
陶の可能性

comment

窯構造・焼成方法・窯窓を通して陶芸の視座を養い、土・素材自体を問い、新たな解釈・造形の可能性を追求します。



准教授
青木 宏憧
AOKI Kodo



専門分野: 漆芸
テーマ: 乾漆造形
キーワード: 乾漆
塗料表現
漆液精製
装飾造形

comment

漆は植物の樹液です。縄文時代から日本で使われてきた造形素材で接着剤、塗料の2つの役割があります。形を造るところから画材まで一貫して漆が主軸になり造形が可能です。制作にはとても時間を費やしますが、完成した時の輝きは他の材料では表現出来ない美しさがあります。



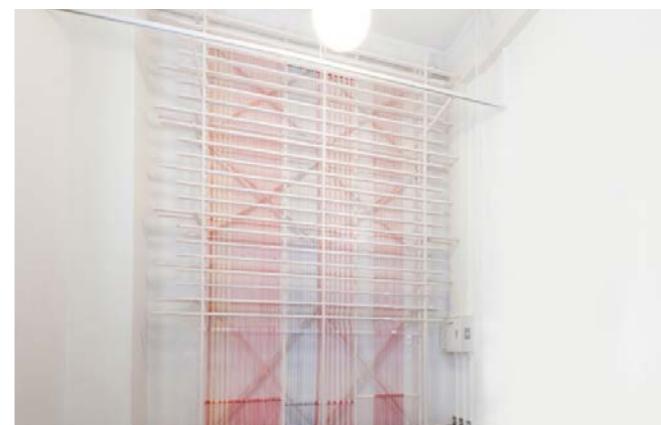
准教授
橋本 圭也
HASHIMOTO Keiya



専門分野: 染織
テーマ: 繊維造形
キーワード: 繊維造形・織・染

comment

織・染・繊維造形の幅広い研究制作と教育の経験を活かし、繊維素材を用いた造形表現・活動をサポートします。指導教員は学生と対等な関係で、個々の研究概要に沿って大学院修了後の活動を見据えた独自性の高い研究活動を探求します。研究室と修了生は、将来も協働出来る存在になることを目指しています。



准教授
山田 菜々子
YAMADA Nanako



専門分野: 染織
テーマ: 伝統染色技法の展開
キーワード: 糊防染
着色防染
型染
友禅染

comment

伝統染色技法である、友禅染・型染に着目し、糊による着色防染技法を使って独自の表現に展開し、新しい染表現を探求しています。また、それら伝統技術の記録・保存への取り組みも重要視し、その上で「染める」ことだけではなくテキスタイル全般の可能性や多様性に目を向け、柔軟な視点・思考に重きを置いた指導を目指します。



教授
椎名 勇
SHIINA Isamu



准教授
椎名 勇
SHIINA Isamu

専門分野: 陶芸
テーマ: 陶磁造形
キーワード: 素材探求
質感
器
表現

comment

陶磁造形素材の研究を進め、用途と美術表現の両視点から色彩・形態・質感との関係性を探求し、陶磁造形と物・人・空間・社会との関連性を追求しています。



講師
園部 秀徳
SONOBE Hidenori



専門分野: 素材造形(木材)
テーマ: 木工の技法と材料
キーワード: 木工とかたち
手仕事と木工具
木工における構造
リレーション

comment

本研究室では木工技法材料研究と木材造形研究を主旨としています。この過程を通じて、一人一人が独自の素材観を培い技法の修練をしながらその制御を身につけます。また制作した作品や研究がその本質を衝くものであるか、教員学生共に批評性を持ちながら対話をしてゆきたい。それらを踏まえて創作のベースとなる豊かな感性や自立した理念を養い現代社会における有効な作品のあり方を探求し、そして人々との多様で良い関係性(Relationship)を築くものを見つけたいと思っています。



教授
藤原 信幸
FUJIWARA Nobuyuki



専門分野: 素材造形(ガラス)
テーマ: ガラス素材を用いた作品表現
キーワード: 現在のガラス造形
技法研究
造形の社会実践

comment

伝統的な技法の習得を通して、個人の自己表現に留まらずに工芸、美術、芸術の社会に対する実践を学ぶ力をつけていきます。また、個人の制作と共に、研究室活動やプロジェクトに参加したりしながら経験を積んでいきます。留学生も多く、海外との交流も盛んに行っています。

